



企画：東京女子大学現代教養学部人間科学科心理学専攻 前川あさ美 先生

iPad版防災アプリ『まもるリュック』は、発達障がいの子どもたちを特に対象として、自分のことに興味をもってもらったり、防災や震災時に必要な知識を身につけたりできるような工夫がなされています。



防災や震災時に必要な情報の種類や物資の特性が、タッチやスクロールをすることで具体的にでできます。

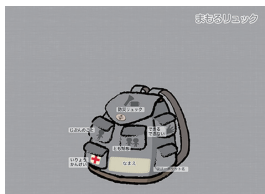
種類や特性はひとりひとり異なるため、それぞれがカードのタイトルを見ながら、子ども(自分)について考えたり、家族や教員と一緒に何が防災や震災時に必要かを意識して、記入することができます。

東日本大震災の災害発生直後は比較的混乱はなく「いい子」が多かったが、ライフラインの復旧と共に居場所、物資、情報、障害への知識、人材の不足が子どもと彼らの家族を長期にわたって苦しめた。しかし、そうした中でも、他者と繋がることのできた保護者たちには、「自分の受容」「子どもへの発見」「他者との絆意識」「新しい価値観と感謝」といったポストトラウマティックグロースが見いだされた。子ども(自分)を具体的に知ること、子ども(自分)をありのままに理解してもらうこと、そうしたことが、防災や震災時に生き延びる上で大事な土台になることが見えてきた。こうした調査の結果を踏まえて、子どもが主体的に関われる防災アプリ「まもるリュック」が開発された。

ポケットの内容

- 防災リュック** 「命をまもるため」「気持ちが安心できるため」「一人で室内で時間を過ごすため」「屋外で過ごすため」「自分のことを分かってもらうため」の5つのカードがでできます。カードに記入しながらリュックに実際に入れてみます。重くなりすぎないようにしましょう。
- じぶんのこと** 「自分について」「家族について」「通っている園・学校など」「緊急時の連絡先」「緊急避難場所」のカードがでできます。
- いりょうかんけい** 「自分の名前」「保険証番号」「手帳番号」「アレルギー・その他既往歴」「常備薬」「よく行く病院と主治医」のカードがでできます。
- ともだち** ともだちだけでなく、知り合いなどの名前や連絡先などの情報をいれておきます。アイコンには写真や、友だちの好きなイラストなどを入れておくことができます。
- できる・できない** 「パニックになったとき」「お願いしたいこと」「得意なこと」「苦手なこと」「大好きなこと」「特にわかっておいてほしいこと」のカードやチェック項目のカードもでできます。
- フリーポケット** 自由に名称をつけて、自分だけのポケットにすることができます。

初期段階の画面



色指定パレット



様々なタイプのカード記入画面 (サンプル)

